

私のお薦めコーナー

道南の秘境温泉『二股らじうむ温泉』

知本康男

1. ロケーション

今回は道南の秘境温泉のひとつである『二股らじうむ温泉』を紹介します。どうやら今はラジウムではなく“らじうむ”が正式名称のようです。所在地は山越郡長万部町字大峰で、図-1に示すように長万部町市街地から北西方向に約13km(直線距離)の自然豊かな山間地に位置します。札幌からは高速道路を使っておおよそ3時間弱で辿り着けます。なお、JR函館本線の二股駅からは徒歩90分の距離だそうです(これは夏期限定ですね)。

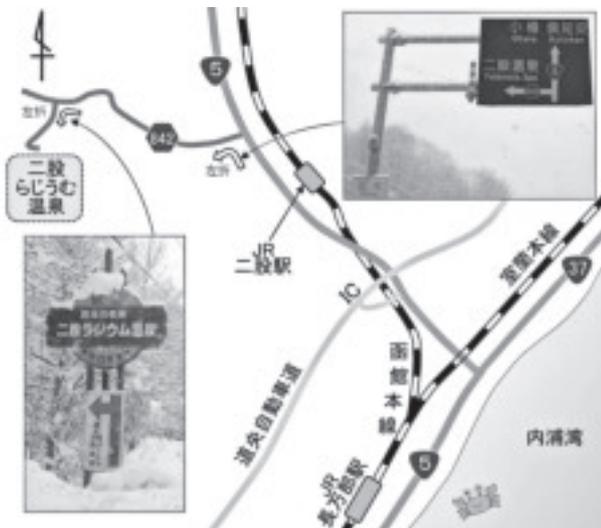


図-1 二股らじうむ温泉のロケーション

昨年末の某日、コロナ禍で出掛ける機会が激減している折、絶対に込み合わないで入浴できるとの条件をマストに日帰り温泉の旅を決行しました。また、できれば秘境感たっぷり、らしい泉質、そして冬期も営業しているとの条件で行き先を選んだ次第です。

2. 昔ながらの秘境温泉

実は私自身、この温泉地に足を踏み入れるのは35年ぶりとなります。勝手ながら昔(当時)の印象を列挙すると、ドーム構造の薄暗い浴室には大小多数の湯船があり、お湯は褐色不透明、湯船の底にはドロっとした沈殿物あり、かけ流し部分には石灰の析出が顕著で、ホースで沢水が引かれていて、脇の小さい露天風呂からは天然の石灰華ドームの造形美が拝めて、そして何より混浴(脱衣所だけ別)と言う湯治に特化した木造旅館との固定概念を持ち続けていました。羆が温泉に浸かっているところをアイヌの人々が発見したとの開湯伝説からも秘境感が漂うことは間違いなしです。

このように古い情報しか持ち合わせていなかったため、訪問前日にWebの書き込み(口コミ)を読んでもみると、経営者も替わり2000年代に宿の建屋も更新され(写真-1)、かつての湯治宿のイメージは払拭され、時間によっては温泉愛好家などの日帰り客でかなり混み合うとの情報でした。こりゃマズイと思い、混雑を避ける意味で早朝に札幌を出発し、午前中の早い時間に到着しました。案の定、湯治目的の宿泊客らしき数人の入浴者がいましたが、浴場内ではゆったりとソーシャルディスタンスを確保してお湯を楽しむことができました。



写真-1 温泉宿の外観

### 3. どんな温泉？

改修された浴室は採光窓が広くてとても明るく、内風呂に4槽、露天風呂に4槽(小型)の湯船があり、プールと称する細長い湯船もあります。基本的には混浴ですが、女性専用の浴室もあり、シャンプーや石鹸を使用できる内風呂も用意されています。内風呂は水深120cmもあり、子供さんが入浴する際には少し注意が必要ですね。詳しい泉質や効能は専門誌にお任せするとし、特筆すべき点は、“微量のラドン成分を含むこと”と“石灰華が顕著なこと”です。湯船からかけ流しでオーバーフローする箇所は勿論のこと、湯を引く樋(とい)や浴室の床にまで石灰華(炭酸カルシウムの析出沈殿物)が見事に沈着しており、視覚的にもこれぞ温泉！って感じがします。この石灰華はお土産『湯の華』として購入もできます。

そして一番の醍醐味はやはり露天風呂から望む石灰華ドームの造形美です(写真-2)。この規模は国内有数であり、北海道の天然記念物に指定された圧巻のシンボルです。入浴後に長万部町市街地まで戻っても、しばらく身体が火照っている感覚が残っていました。これも本泉の効能のひとつなのでしょう。



写真-2 溪岸斜面に見られる石灰華ドーム

### 4. 話は少し脱線しますが…

少し話は脱線しますが、行き先を選考する際の対抗馬として、朝日温泉(岩内町)と臼別温泉(大成町)が候補でした。朝日温泉では、かつて青大将数匹との混浴に肝を冷やし、臼別温泉では地元の御婦人たちの混浴にドキドキしたり、私には非常に印象深

い温泉です。両方とも負けず劣らず秘境感たっぷりですが、冬期はアプローチ不可とのことで二股らじうむ温泉に軍配が上がった次第です。

また、候補には挙がりませんでした。二股ラジウム温泉から南側の尾根を挟んだ直近の奥ピリカ温泉は無色透明のサラサラの湯で驚きです。これが温泉めぐりの醍醐味のひとつでもありますね。

### 5. 是非行ってみよう！

私が訪ねた日は前夜からの断続的な降雪が続いていましたが、国道5号は勿論のこと、一部幅員が狭くなる道道842号も除雪作業は盤石に施されており、かえって冬道のほうが走行に安定感を覚えました。宿前の駐車場には温泉水が常に放水されており降雪日も安心です。

コロナ禍で外出自粛が叫ばれておりましたが、TPOに十分配慮して三密回避で温泉を堪能&リサーチすることができ、ここに湯治宿の風情が残る秘境温泉地を紹介させて頂くことが出来ました。本稿を執筆している今(1月中旬)、11都府県に緊急事態宣言が発令され、北海道も予断を許さない状況ですが、国内でもワクチン解禁が目前のようですし、情勢が落ち着いたら是非お出掛けしてみても如何でしょう。

最後に、温泉からの帰路、長万部の名物“駅弁かにめし”もとても魅力的なオプションですね！

知本康男(ちもと やすお)

技術士(建設/応用理学/総合技術監理部門)

基礎地盤コンサルタンツ(株) 北海道支社

